

## 総合部会 主要意見

日時：H20.11.17(月) 15:00 - 17:00

場所：県庁6階第2会議室

### 1. ビジョンの理念、指標、議論のあり方について

- ビジョンとは何かを委員間で認識を共有しながら、議論を進めていくことが大事である。
- ビジョンの指標のひとつとして、国民総幸福量（GNH）を取り入れてはどうか。ブータンでは、物質的豊かさの指標である GNP に変わる指標として国民の幸福度を測る GNH を指標としており、沖縄こそ日本国内で GNH があう場所である。
- ビジョンは、ワンワールドに収れんされていくと思う。
- この部会は、県民の目標を言葉で表すことが任務。目標と現実のギャップが問題であり、問題解決を含めて、目標を表現していく必要がある。
- ビジョンの中で、沖縄的コンセプトを表現することが最も大切である。子供達が地域に誇りを持つ演出など文化的な面でのアプローチの仕方など、沖縄にしかない要素を大いに活かして、子供達の環境を考え、子供達の変化をとおして、大人も変わっていくことが大事。
- 住民が住みよい街づくり＝県民の幸せである。  
県内だけの閉じたものではなく、ビジョンを議論する際は、個人、組織、社会、地球益まで範囲を広げるべきだ。
- 沖縄の幸せだけを追求してもよいと思う。沖縄の成功例ができれば、普遍性を持ち、外部が学ぶようになり、輸出できる。そうすれば、自然と国益、世界益になる。
- 実現可能なビジョンをつくらないと、無駄である。理想と現実を兼ね備えていかななくてはならない。
- 文化を産業化することは、単にメジャーデビューすることではなく、沖縄独自の方法がある。どこもなしえてない商業的舞台をつくることと、社会事業として地域に根ざした活動との間のことが大切だと思う。そういうのが、沖

縄の新しい形、哲学、生き様であり、ビジョンの中でそういったことを議論したい。

○ビジョンの目標は、県民の幸せであると思うが、県民の幸せだけを目標とすると、閉じたものになってしまう。これまでの沖縄振興計画は、自立を最上位の目標にしていたが、ビジョンでは、自立という柱に加えて、相互扶助とか国際貢献など、相互依存して生きていくこと、沖縄のゆいまーる精神が、重要な視点になるのではないか。

○人口減少化局面を考えたとき、経済成長は縮小となる。無駄をそぎ落とし、創造的縮小をしても、幸福を感じる、縮小は悲観的ではないという考えもある。そこをビジョンで議論し、沖縄は他の46都道府県と異なる方向のビジョンを策定してもよい。

○交流人口について、ビジョンの議論に加えてほしい。

## 2. 県民とビジョンを共有するための方法について

○誰に対してのビジョンなのかが大切。いかにわかりやすく、シンプルに伝えられるかが重要。

→ビジョンは沖縄県民のためのもの。

○ビジョン策定後は、県民にきちんと伝わるよう、歌ややさしい読み物などで、工夫し、県民に広く伝えるべき。

→ビジョン本体は、県の施策の基本となるので、ある程度のボリュームは必要であり、50ページ程度は必要だ。県民周知に関しては、別冊でわかりやすい物を作成することは大切。

○2030年のビジョンを、物語形式でイメージが湧きやすい形で資料を作成してみた。ビジョンを県民に周知する際、県民、とりわけ子供達が関心を持てるように工夫が必要である。

○子供の発想にはすばらしいものがあるので、ビジョンについて幼稚園、小学校生の発想もきいてみるのもいい。

## 3. 環境について

○産業振興の面では、環境を考慮する際、経済発展に制限をかけるため、企業

自体が思い切った経営ができなくなる。静脈、動脈産業の一体化が必要である。

○持続的発展を考えた場合、ある程度発展しながら、総量規制をかけていくかを考えていく必要がある。沖縄はキャリングキャパシティ、許容範囲を考え、環境フロンティアになるべきだと思う。

○環境問題＝ゴミではない。住みやすい状態をどうつくるか。倫理・道徳が重要だが、これだけでは成り立たない。産業として考えないと、続かない。

○環境を考える際、一步踏み込んで、環境を産業にすることは斬新な発想だと思う。道徳的だけでなく、産業的に環境を考えることが必要。

#### 4. 道徳的又は制度的（強制的）な制御と市場原理のバランスについて

○環境ビジネスは、法律、倫理の両方の制御が必要。制御することによって、社会全体的には、良くなる。昔からそういう文化があったが、市場原理に追いやられた。GNH等、沖縄の環境を高める新たな指標があってよい。

○環境だけでなく、福祉も市場にまかせるとか、インセンティブを働かせすぎると、理念のないものになり、失敗する。まず、理念があって、そのための制度があるべきだと思う。

○福祉でいうと、措置法から支援法に変わり、制度が変わった時、お金の流れ、人の対応が変わり、制度の変化のすごさを実感した。制度がなくては、協力しない面はある。

○ローカルルールとして、市場原理と制御のバランスがいい仕組みを編み出していけるかを議論していければと思う。

#### 5. 福祉について

○障害のある方など弱者に対するサービスの充実度が市町村によって異なる。

○ビジョンの中で、弱者の部分が漏れていないよう、除かれたものにならないよう、きちんと課題提起をしていきたい。

## 6. 中小企業について

○中小企業の面から発言すると、2030年は、グローバルな発想の人材、地域に対する誇りを持った人材が多くなると思う。そういった人材を活かせる社会になって欲しい。

○自立した経営者を応援できる制度等、ソフト面での支援が必要だ。

## 7. 海洋の有効利用について

○沖縄は島嶼県だが、物流の意味で海洋が活かされていないと思う。  
→物流は、空にシフトしている。輸送という意味では、クルージング船の利用が期待できる。その際、文化、芸能が重要性を持つ。

○海の安全確保は、重要。ゾーン（国境）を管理する、海運を含む航路に関して沖縄県は密接に関わることができる。

→海洋汚染、産業廃棄物による島の環境汚染の問題が想定される。

## 8. その他

○委員は、ビジョン大使として、広報活動していきたいと思う。

○高校生対象にアンケートしたところ、将来どうなってほしいかは、環境への関心が多い。

○アジアの発着便数は、増えてくる。ローカル空港を有効利用している例が多い。

○障害者等弱者に対して、人権が守られる仕組みづくりが必要だと思う。